



## 第45回「おかねの作文」コンクール

# イギリスで貯めたお小遣い

東京都・中野区立北中野中学校 2年 瀬崎 章吾

僕は小学生のころ、父の仕事の都合でイギリスに住んでいた。そのときのお小遣いは、「円」ではなく「ポンド」でもらっていた。小学校1年生のときに、月に1ポンド、2年生のときに2ポンドという感じだった。

僕は、そのお金で、サッカー選手のカードを買ったり、輸入して少し高くなっている日本のお菓子を買ったりしていた。ちょっと使っては貯め、ちょっと使っては貯め、というのを繰り返した結果、やっと50ポンドくらいになった。そのとき1ポンドは約200円だったので、日本円で1万円くらい貯まったことになる。僕はとてもうれしくて、「今度日本に帰ったら日本円と交換しよう」と決めた。

しばらくして日本に帰ることになった。僕は、ポンドを日本円に替えようかと思った。だが、そのとき、

「今は円が高いから、損するよ。」

と兄が言うので、あまり深く考えずにやめておいた。

日本に帰ってから少したったころ、ニュースで「驚異の円高」というのをやっていた。新聞にも「円高ドル安」と書いてあり、僕も最初は「ドルが安いんだなあ」としか思わなかったが、「もしかしたらポンドも前より安くなっているかもしれない」と思い、少し調べてみたら、なんと1ポンドが約125円にまで下がってしまっていた。これにはとても驚いた。あのとき1万円だった50ポンドが、今では6,000円くらいになってしまっている。もっと早く両替しておけばよかった。円高ってそういうことか。その思いと同時に、1ポンド250円という、ポンドが一番高い時期にタイミングよく円と両替していた兄の姿が思い出された。お兄ちゃんはなんて運がいいんだろう。

では、僕のお金の差額(4,000円)はこの2~3年でどこに行ってしまったのか。そういうことに興味を持つようになり、調べてみた。すると、ポンドやドルだけでなく、他の通貨も安くなっていて、円だけが高くなっていることがわかった。さらに調べてみると、どうやらユーロ危機やリーマン・ショックが原因であるらしいこともわかった。





はたして、円高は悪いことなのだろうか。イギリスに住んでいた当時を買っていた、サッカー選手のカードは1ポンドだったので、日本円で約200円だった。しかし、今なら約125円相当で買えることになる。海外で円を使う場合には得をすることになるのだ。だから、立場が変われば、円高は悪い面ばかりではない。

このような個人的な買い物では、為替レートの変動による損得も大した額ではないのかもしれないが、もっと大きな立場だとそうはいかない。例えば、車を海外に売っている会社は、1万ポンドの車を売って200万円をもらっていたのに、今では125万円しかもらえなくなってしまう。金額が大きいだけにこれは大変だな、と思っていたら、工場そのものを海外につくり、現地で生産するという方法があると知った。こうすれば、会社の損失はおさえられることになる。

反対に、海外から物を輸入している会社は、円高によって利益が生まれるはずだ。だから、スーパーやデパートなどで時々目にする「円高還元セール」などをもっとやってほしいな、と思った。

また、お金の価値というのは常に変動し続け、世界のいろいろな事情と関係して変化しているんだな、と感じた。また、それと同じ理由で、僕のお小遣いも価値が上がったり下がったりしているんだということもわかった。

僕はこのポンドのお小遣いのおかげで、世界の情勢やお金の動きなどに興味をもつことができたし、たまに新聞の経済面や、円高について取り上げているニュースも見ることができた。

そして、すぐには円は安くはならないだろうということがわかったので、僕は50ポンドをこのまま取っておいて、いつかポンドが高くなることを待ち望んでいる。目指せ、1ポンド250円！

